

昭和28年3月10日

の1人兒玉は對側卵巢が肉眼的正常形態を示すク氏腫瘍剖検例4例を蒐集し、其正常形態を示す卵巢の連續切片を作成、精細に追究の結果何れも卵巢門周邊部に未だ腫瘍化を示さない癌細胞集團を發見し、兩側性、片側性の問題は一にかゝつて時期的關係にあると結論するに致つた。今回演者遠山に依つて更に1例の追加を得たのでこれを報告する。

磯〇フ〇エ (31歳)

臨床診斷名 右側卵巢囊腫

初診 昭和27年10月20日

入院 昭和27年12月26日

手術 昭和27年12月26日

死亡剖検 昭和28年1月9日

家族歴 特記する疾患はない。

現症 手拳大の硬き腫瘍で、左側卵巢は正常。

剖検 腹水なし

胃部 1. 幽門部に於て、超鷲卵大、硬固なる腫瘍があり、其壁は肥厚状、粘膜面は、ほぼ胃街に一致して、約5×3cm不正圓形状の噴火口状をなし、邊緣は突隆状、其底は比較的清淨であるが、一部に小出血點を認む。漿膜面は灰白色大體滑澤であるが、小灣側に於て糜爛と中等度に癒着を認める。

2. 胃の他部は厚さ其他正常と認められるが粘膜面はカタル性炎の像が認められる。

3. 胃周圍淋巴腺は數個小指頭大に腫大し硬固子宮 兩側附屬器を伴へる全剔子にして、鷲卵大、右圓韌帶附着部に網膜の一部癒着の外正常

右卵巢 超鷲卵大、表面灰白色や凹凸不平癒着なし、硬度は弾力性や硬 一部に囊胞様部を認む。切剖面一部被膜に接して小鷲卵大の單房性囊胞を認め、囊胞壁の内面は滑澤他部灰白黄色、膠様感が與へられる。

左卵巢 拇指頭大、正常形態と認められ表面滑澤癒着なく、切割するに數個の小囊胞を認めるの外所見なし。

26. 不妊症に於ける所謂無排卵性月經の意義に就て

(東大) 渡辺 輝彦

原因不明な不妊婦人に於ける所謂無排卵性月經の頻度は、英米では30~54%の高率と云はれているが、余が當科外來を訪れた斯の如き症例199例に就き、月經前期

子宮内膜の組織検査に依り證明し得たその頻度は次表の如くである。

	總數	無排卵性月經例數	%
子宮卵管造影術所見 上兩側卵管が共に通過性のもの	106	5	4.7
同上片側のみ通過性	17	1	5.9
同上 兩側共に閉鎖	48	2	4.2
性器結核症	28		

即ち内膜検査又は内膜、頸管、陰分泌物等の培養に依り性器結核症と診斷された28例を除く171例中、無排卵性月經は8例(4.7%)であり、子宮卵管造影術所見とその頻度との間には一定關係は見られず、更に兩側卵管が共に通過性、且つ精液所見も正常な42例では1例(2.4%)、兩側卵管には異常が無いが精液が無精子症である21例では1例(4.8%)で、孰れにしても英米に比し遙かに低率であることを知つた。尙發見された8例中4例に就き次回周期を検した結果は、3例は正常周期であり、1例は2回に亘り無排卵性周期を呈した後正常周期を示した。

其他エストロゲン投與に依る本症の發現、人工妊娠中絶後に於ける本症の頻發等に就ても報告する。

27. ビトシナーゼに関する知見補遺(第1報)

(東大) 金沢 太郎

妊娠時母体血液殊に血清中に腦下垂体後葉性子宮收縮因子 Oxytocic Principle (O.P.) に拮抗する所謂 Pitocinase 又は Oxytocinase が出現する事は、Fekete (1930) 以來知られており、本物質が一種の酵素である事に關しては米、獨の學者により異論は無いが、その本体に關しては猶不明な點が少なく、殊に Werle (1950) により認められた赤血球 Pitocinase 及び之を阻止する物質に關しては本邦に於て未だ實驗報告をみない。余は妊娠各月の妊婦、種々な患者、男子及び非妊婦等の血清並びに血球其他各種臟器抽出液等に就き本物質を定量し、二・三の知見を得たので以下之を報告する。

實驗方法

この種の實驗には從來専ら海狸剔除子宮が用いられたが、種々の點で適當でないので、余は1951年熊谷氏等により發表された白鼠剔除子宮低温法を用いて實驗を行った。即ち東大産婦人科外來を訪れた正常妊婦15名につき、毎月1回定期的に採血し、その血清ならびに血球につき各月における本物質の絶対値をうかゞう事にした。